

## 日本語とシンハラ語の授受表現の対照研究

— 「アゲル」「クレル」「モラウ」を中心に —

R. M. Sandhya PRIYADARSHANI

浮田三郎

### 1. はじめに

恩恵の意味を持つ日本語の授受表現(アゲル/クレル/モラウ)は初級レベルから導入される項目である。しかし、ほとんどの初級教科書で取り上げられているにもかかわらず、授受表現の習得は日本語学習者にとって必ずと言ってよいほどぶつかる困難の一つであると言われている(堀口 1983)。形式が分かっているにもかかわらず、どのような場面でどう使えばいいかが分からない学習者は、授受表現が必要なおとこで使わず、必要ではないおとこで使用してしまい、誤解や摩擦を生じる場合も少なくないと言われている(堀口 1983、荒巻 2003 他)。

おとこで、シンハラ語と日本語は文法・語順・発音などが非常に良く似ているため、スリランカ人学習者にとって日本語は学びやすい言語の一つだという意見もある(寺村 1982、宮岸 2003 他)。しかし、日本語と似ていると言われている韓国語などの対照研究と比べ、シンハラ語と日本語の対照研究が非常に少ないおとこもあり、両言語の類似点や相違点はいまだに明らかになっていない。

シンハラ語はスリランカの国語で、スリランカの人口(1967万人<sup>1)</sup>)の7割を占めるシンハラ人の母語である。シンハラ語の系統は、インド・アーリヤ語族説、ドラヴィダ語族説、マライ・ポリネシア語族説、孤立語説があるがその中에서도インド・アーリヤ語族説がもっとも有力であるといわれている(中村 1989、宮岸 1998)。そして、シンハラ語と日本語の類似点としては、少なくとも以下の3つの点が挙げられる。

- 1) 語順は、主語・目的語・述語の順番でSOV型である。
- 2) 独立した単語である後置詞がある。
- 3) 動詞に語尾変化がある。

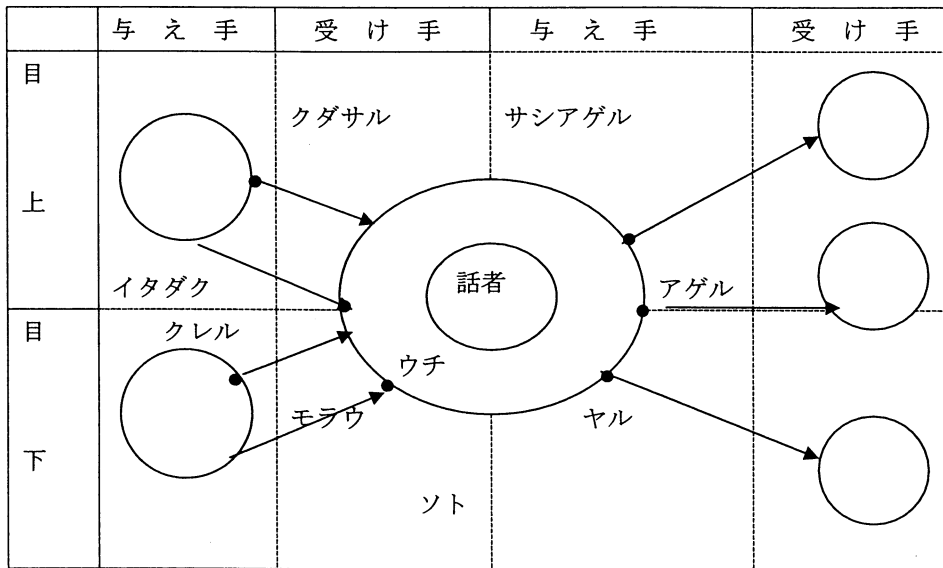
また、寺村(1982:135)でも「全ての外国人がこれに(授受表現の使い分けに)苦しむというわけではないのはもちろんである。日本語の初級コースでスリランカ人学生が一向に難しくないので聞いてみると、シンハラ語にも似たような言葉の使い分けがあると驚いて驚いたおとこがある」と述べており、これらは、シンハラ語話者が日本語を習得する際、有利な点であると言える。

しかし、これは、ただ彼自身の日本語教育現場での経験から言われているおとこだけで、専門的に分析されているわけではなく、今後両言語の語順・指示語・授受表現などの対照

研究が行われるべきであると考えられる。そこで、本稿では日本語の授受表現の例文とそのシンハラ語訳を対照比較することで、両言語の授受表現の類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。

## 2. 日本語の授受表現の意味特徴

日本語の授受表現には「アゲル」「クレル」「モラウ」という 3 系があり、それらの敬語表現である「サシアゲル」「クダサル」「イタダク」と、自分より目下に対しての「ヤル」との 7 つの動詞が用いられる。また、各動詞に対し、補助動詞用法もある。授受表現に対する日本語学的な研究が数多くなされているが、その大部分が「視点」という面に注目されている（久野(1978)、奥津(1979,1986) 鈴木 (1972) 他) 研究である。奥津 (1979:3) は日本語の授受表現の特徴を図 1 のようにまとめている。



●は主語 (たとえば「下さる」なら目上の与え手が主語)

図 1 日本語の授受表現 (奥津 1979:3 より)

以上のように日本語の授受表現には、与え手と受け手のどちらを主語にするかという視点制約、目上・目下という上下関係の区別、「ウチ」と「ソト」という物や行為の移動する方向性がかかっていることがある。

そして、鈴木(1972)、奥津・徐(1982)、寺村 (1982)によると、授受表現はヴォイス性を持つ表現としても説明できる。ヴォイスとは、内容が同じであるものを行為の主体と対象のどちらを主語にするかにかかっている表現であるからである。鈴木(1972:394)は使役文と「~テモラウ」文の関係を次の例文を挙げながら説明している。

- (1)a.おじいさんが自転車を買う。  
 b.弟がおじいさんに自転車を買わせる。  
 c.弟がおじいさんに自転車を買ってもらう。

「～テモラウ」のやりもらい文では、利益（恩恵）を受ける人物が主語になるが、使役文では、動作をするように働きかける（許可を与える）人物が主語になる。この場合は、主語で表される人物が利益を受けるかどうかは表現されない。

また、鈴木（1972）で「～テモラウ」文は、主語が利益を得る意味であるのに対し、使役文では、主語は利益を受けるかどうかは問題にしないとしている。

以上、日本語の授受表現には与え手と受け手の間の視点制約、目上か目下かという上下関係、「ウチ」と「ソト」の区別以外にヴォイス性も含まれていることが明らかである。

### 3. シンハラ語の授受表現の意味特徴

#### 3.1 シンハラ語の授受動詞の種類

スリランカの国語であるシンハラ語では一般的に授受表現を日本語の「やりもらい」、英語の「giving and receiving」と同じく、「ganu·denu<sup>2</sup>」表現と呼ばれる。シンハラ語の授受表現を詳しく説明すれば次のように説明できる。

シンハラ語では、誰かに何かを与えるという意味を持つ「දෙනාව = denawa」、誰かから何かを受け取る、手に入れるという意味の「ගන්නාව = gannawa」また、自分の要求なしに「何かが入る」の意味の「ලැබෙනාව = læbenawa」の三つの表現と、それらに対応する授受補助動詞として「-la/denawa」と「-wa/gannawa」の二つの表現が用いられる。しかし、日本語と同じく三つの表現があるからといって日本語の授受表現と完全に一致するとはいえない。次に、シンハラ語の授受表現の意味特徴を動詞ごとに分析してみる。

#### 3.2. 「denawa」

シンハラ語の授受本動詞である「denawa」は、日本語の「アゲル」、「クレル」、「与える」「贈る」などの表現に相当する。物の授受方向が「私→他者」「他者→他者」の場合日本語の「アゲル」表現と非常に良く対応する。また、授受方向が「他者→私」の場合、日本語の「くれる」に対応する。

##### 3.2.1. 「denawa」が「アゲル」に対応する場合

シンハラ語で物の授受方向が「私→他者」「他者→他者」場合日本語の「アゲル」に対応する。

- (2)<sup>3</sup>mama kimurata malak denawa.  
 私は 木村さんに 花を あげます。

(3) ammage upandinayata monawada dunne?(denawa→過去=dunna)  
お母さんの 誕生日に 何を あげましたか。

(4) guruwarayaata taaggak dunna.  
先生に お土産を さしあげました。

上記の例文を視点の置き方から見ると、与え手の主語が「私」である場合日本語の「アゲル」に対応する。(3) を見てみると、与え手の主語が二人称になることが分かる。しかし、「お母さんの誕生日に何をあげましたか」という質問に対する答え、つまり、行為をする動作主は一人称になるため、質問で表わす授受方向は「他者→他者」であるが、それに対する答えの授受方向は「私→他者」になる。

### 3.2.2. 「denawa」が「クレル」に対応する場合

シンハラ語では、主語が与え手である場合、授受方向が「他者→私」の場合、受け手が目上か目下に関係なく「denawa」を使うのが自然な表現になる。

(5) tatta mata salli dunna.  
父が 私に お金を くれました。

(6) yaaluwa (mata)chaayaaruupayak dunna.  
友達が 写真を くれました。

### 3.3. 「-la/denawa」

「denawa」に関連し、授受補助動詞的表現で「-la/denawa」がある。「-la/denawa」の表現も本動詞と同じく与え手が主語で、授受方向が「私→他者」の場合、日本語の「～テアゲル」に対応し、行為の授受方向が「他者→私」の場合、日本語の「～テクレル」に対応する。この表現が使用する際のも「denawa」と同じく与え手が目上か目下か上下関係は関係しない。

#### 3.3.1. 「-la/denawa」が「～テアゲル」に対応する場合

授受方向が「私→他者」の場合日本語の「～テアゲル」に対応する。

(7) mama eyaata dumriyapolata yanapaara kiyaladunna.  
私は その人に 駅へ 行く道を 教えてあげました。

(8) mama yaaluwaata sinharakaama hadaladunna.  
 私は 友達に スリランカ料理を 作ってあげました。

### 3.3.2. 「-la/denawa」が「~テクレル」に対応する場合

授受方向が「他者→私」の場合日本語の「~テクレル」に対応する。そして、与え手が目上か目下かは関係なく、主語が他者である場合恩恵の意味を表わす。

(9) yamada mata sithiyamak andaladunna.  
 山田さんは 私に 地図を 書いてくれました。

(10) Karina mata durakathanaankaya kiyaladunna.  
 カリナさんは 私に 電話番号を 教えてくれました。

### 3.4. 「gannawa」

シンハラ語の「gannawa」は日本語の「取る」と「モラウ」に対応するといえる。しかし、恩恵の意味を表わさない点で「モラウ」よりも「取る」に当たると思われる。

(11) 姉 : methana thiyalathibuna pææna koheda giyee?  
 ここにおいてあったペンはどこに行った。

妹 : Ah, eekada? eeka ayithikaarayek naha kiyala hitala mama gatta.  
 (gannawa の過去形)

あっ、それか。それなら持ち主はいないと思って私がもらったよ。

(12) Nee, akke mee pinthuure oyaata epaanam mama gannada?  
 ねえ、姉ちゃん、この 絵 姉ちゃん いらぬなら 私 もらっていい。

(13) Magee pinthuura potha kawda gatte?  
 私の 絵 本 誰が 取ったの。

「gannawa」の補助動詞用法である「wa/gannawa」は、「~テモラウ」に対応する。「wa/gannawa」表現に含まれている「wa」が使役の形態素であることから「wa/gannawa」は使役表現としても考えられるが、これは、シンハラ語で単なる使役ではなく、自分のためにさせる動作であることを形式的に表す表現である。

(14) mama yamadalawa sitiyamak andawagatta.  
私は 山田さんに 地図を 書いてもらいました。

(15) guruwarayalawa charithasahathikayak liyawagatta.  
先生に 推薦状を 書いていただきました。

上記の例文(14-15)のように、シンハラ語の「wa/gannawa」は、日本語の「～テモラウ」表現に対応する場合もあれば、(16-17)のように与え手の授受行為者があまりいい気持ちでやってくれた訳ではなく、「私が無理やりしてもらった」という強制的な意味になる場合もある。

(16) eya bæhæmayi kiwwata mama kohomahari karawagatta.  
彼女は 出来ないとはばかり 言っていたけれど、私は どうか やってもらった。

(17) Oyaa kochchara æduwath (ada) hawaswenna kalin kaamaree askarawagannawa hodee.  
あなたが いくら 泣いても 夕方までに 部屋の掃除をしてもらうからね。

以上の例で説明したように、シンハラ語の「wa/gannawa」は、日本語の「～テモラウ」と意味的に非常に似ているが微妙に違うことが分かる。なぜなら、日本語とシンハラ語での使役形表現は別のものであり、「～テモラウ」、そして、「wa/gannawa」は使役行為をやわらげる表現であるからである。しかし、シンハラ語の「wa/gannawa」が場合によって強制的の意味も持つことで日本語の「～テモラウ」とは意味的に異なる。

このように、「wa/gannawa」の表現には日本語の「～テモラウ」のような恩恵の意味が含まれる場合もあれば、そうでない場合もある。その危険性を避けるため、主語が与え手である場合使われる「la/denawa」表現で恩恵の意味を表わすことが多い。

(18) Yamada mata koopi hadaladunna.  
山田さんが 私に コーヒーを 入れてくれました。

### 3.5. 「læbenawa」

シンハラ語の「læbenawa」の授受表現は話者の視点に関わりなく受け取る動作一般を表わすが、物の授受方向が「他者→私の」場合日本語の「モラウ」に対応する。

(19) mata kariinagen chokolatekak læbuna. (læbenawa の過去形)  
私は カリナさんから チョコレートを もらいました。

(20) tattagen Kamisayak læbuna.

父から シャツを もらいました。

「læbenawa」には補助動詞としての用法はない。日本語の「～テモラウ」に相当するシンハラ語の補助動詞の表現は前節で述べた「-wa/gannawa」が使用される。

以上、シンハラ語と日本語の授受表現の意味特徴を表にまとめると、次のようになる。

表1 日本語とシンハラ語の授受本動詞

	日本語						シンハラ語					
	与え手主語			受け手主語			与え手主語			受け手主語		
視点	平待	恭待	謙譲	平待	恭待	謙譲	平待	恭待	謙譲	平待	恭待	謙譲
与え手	アゲル		サシアゲル				denawa					
受け手	クレル	クダサル		モラウ		イタダク	denawa			gannawa (他)		
										læbenawa (自)		
中立	アゲルヤル		サシアゲル	モラウ		イタダク	denawa			gannawa (他)		
										læbenawa (自)		

(他)→他動詞、(自)→自動詞

表1は稲熊(2004)<sup>4</sup>を参照に筆者が作成した授受表現の本動詞が日本語とシンハラ語においてどのような性質を持つのかを対照し、示したものである。表1で示している通りしんはら語では、日本語の「もらう」に対応する表現が2つあり、一つ目は、自分の要求で「手に入れる」の意味を持つ「gannawa」である。二つ目は、自分の要求無しに「手に入る」の意味の「læbenawa」である。このように、両言語の授受表現に三つの表現が用いるが、それらの素性が複雑であることが分かる。

また、表2は、日本語とシンハラ語の授受補助動詞の性質を対照し、示したものである。これらの二つの表を見てみると、授受本動詞の場合、シンハラ語の「denawa」という表現は日本語の「アゲル」と「クレル」に相当するといえる。しかし、「læbenawa」は日本語の「モラウ」表現に語用論的に相当できるが、意味論的に完全に一致するとはいえない。そして、授受補助動詞の場合もシンハラ語では「-wa/gannawa」と「-la/denawa」と二つの表現しか用いられない。

表 2 日本語とシンハラ語の授受補助動詞

視点	日本語						シンハラ語					
	与え手主語			受け手主語			与え手主語			受け手主語		
	平待	恭待	謙 讓	平待	恭 待	謙讓	平待	恭待	謙讓	平待	恭 待	謙 讓
与え手	~テアゲ ル ~テヤル						la/denawa					
受け手	~テクレ ル	~テク ダ サ ル		~テモ ラウ		~テイ タ ダ ク	la/denawa			wa/gannawa		
中立	~テアゲ ル			~テモ ラウ		~テイ タ ダ ク	la/denawa			la/denawa		
										wa/gannawa		

#### 4. まとめと今後の課題

まず、シンハラ語の授受表現には話者の視点が関係ないため、日本語のように「ウチ」と「ソト」の区別はないが、日本語と同じく、利益・恩恵の意味を表わすことがある。基本的に主語が与え手の場合、授受方向が「私→他者」でも「私←他者」でも「他者→他者」でも「denawa」（およそ、授受方向が「私→他者」の場合、日本語の「アゲル」と「他者→私」の場合日本語の「クレル」に語用論的に相当）を使用し、受け手が主語の場合、授受方向に関係なく「gannawa」または「læbenawa」（およそ日本語の「モラウ」表現に語用論的に相当）が使われる。上記の例文を見ながら検証したように「gannawa」表現は、「モラウ」よりも「取る」の意味に近いことが分かる。

以上をまとめると次のようになる。

まず、両言語の授受表現の類似点として、

- i. シンハラ語の授受本動詞には、日本語と同じく、「denawa」「gannawa」「læbenawa」の三つの表現が用いられる。
- ii. 両言語の授受表現で利益・恩恵を表すことがある。
- iii. シンハラ語でも授受補助動詞が用いられる。
- iv. 日本語の「~テモラウ」とシンハラ語の「wa/gannawa」は使役表現をやわらげる表現であることで、両言語の授受表現の間に緊密な関係がある。

ことが挙げられる。



次に、両言語の相違点として、

- i. シンハラ語の授受本動詞として、「denawa」「gannawa」「læbenawa」と三つの表現が用いられるが、それらは、日本語の「アゲル」「クレル」「モラウ」に語用論的に一致しているだけで、意味論的に完全に一致しているとはいえない。
- ii. 日本語の三つの授受補助動詞に対し、シンハラ語では「-la/denawa」と「-wa/gannawa」の二つの表現しかない。
- iii. 授受補助動詞の場合、「-la/denawa」は、日本語の「~テアゲル」と「~テクレル」に語用論的に対応するが意味論的に一致するとはいえない。これは日本語の「クレル」系に見られるように、「外側」の人物の行為を「内側」の視点で表示する語ではないので「アゲル」系の授受表現が「クレル」系と区別されないといえる。
- iv. シンハラ語では、「イタダク」「クダサル」のような敬語表現が用いられない。
- v. 「-wa/gannawa」は日本語の「~テモラウ」に語用論的に対応するが、使役形の形態素である「wa」が含まれているため、場合によって相手に「無理やりさせる」という強制の意味になる事もある。

ことが挙げられる。

そして、シンハラ語では、「イタダク」「クダサル」のような敬意を表わす表現も用いられないため、これらの表現が学習者にとって習得しにくいといえるが、それは授受表現の問題点よりも敬語の表現の問題点としていえるだろう。

このように、シンハラ語の授受表現は日本語と似ているといわれていても、日本語の授受表現の例文とそのシンハラ語訳を対照比較してみることで、両言語の授受表現の類似点と相違点が明らかになったと思う。本稿で扱った例文全てを口語シンハラ語に訳してみたが、シンハラ語は口語と文語にはっきり分けられている言語であるため、さらに、シンハラ語の文語が扱われた対照研究も必要であるといえる。また、両言語の文学作品とその翻訳では授受表現がどのように翻訳されているか、それらが現実の社会で日本語を使用している学習者の翻訳とどう違うかの検討は今後の課題とする。

---

#### 注

- 1 2005年現在のデータ（一部地域を抜く）
- 2 シンハラ語では、一般的にやりもらい表現を「ganu·denu」という。（シンハラ語と日本語の語彙辞典や文法教科書でこれらについての詳しい説明がないため、この表現が授受表現として扱われることを50人のシンハラ語母語話者に確認した。）
- 3 本稿での全てのシンハラ語の訳は筆者により、それらのシンハラ語表現の自然さを10人のシンハラ語母語話者に確認したものである。
- 4 稲熊(2004)は韓国語と日本語の授受表現を比較したものであり、本稿の筆者が作成した表1と表2は、シンハラ語と日本語の授受表現を対照比較したものである。

## 参考文献

- 荒巻朋子 (2003) 「授受文形成能力と場面判断能力の関係—質問紙調査による授受表現の誤用分析から—」『日本語教育』117 : 43-52.
- 稲熊美保 (2004) 「韓国人日本語学習者の授受表現の習得について—「もらう」系と「くれる」系を中心に—」『国際開発研究フォーラム』26. 13-26.
- 江田すみれ (1982) 「「てやる」「てくれる」「てもらう」とタイ語の表現—hai の用法に注目して」『日本語教育』49 : 119-132.
- 奥津敬一郎 (1979) 「日本語の授受動詞の構文—英語・朝鮮語と比較して—」『人文学報 (東京都立大学)』132 : 1-27
- 奥津敬一郎・徐昌華 (1982) 「「てもらう」とそれに対する中国語表現 —清を中心に—」『日本語教育』46 : 92-105.
- 久野暉 (1978) 『談話の文法』講談社
- 国際交流基金 (2002) 『基礎日本語学習辞典 [シンハラ版]』vijithayaapaa prakaashakayo
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』むぎ書房
- スリーエーネットワーク (編) (1998) 『みんなの日本語初級 I 本冊』スリーエーネットワーク
- 床 恵仙 (2002) 「日本語のやりもらい動詞の構造」『人間文化論』第5巻 89 : 97.
- 田中真理 (1996) 「視点ヴォイスの習得—文生成テストにおける横断的及び縦断的研究—」『日本語教育』88 : 104-116.
- \_\_\_\_\_ (1997) 「視点・ヴォイス・複文の習得要因」『日本語教育』92 : 107-118.
- \_\_\_\_\_ (2001) 『日本語の視点・ヴォイスに関する習得研究—英語・韓国語・中国語インドネシア語・マレー語話者の場合—』国際基督教大学大学院博士論文
- \_\_\_\_\_ (2005) 「学習者の習得を考慮した日本語教育文法」野田尚史 (編) 『コミュニケーションのための日本語教育文法』63-80 くろしお出版
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタックスと意味 I』くろしお出版
- 中村尚志地 (1989) 「シンハラ語」『言語学大辞典』第2巻 292-300
- 野口忠司 (1992) 『シンハラ語辞典』大学書林
- 堀口純子 (1983) 「授受表現に関する誤りの分析」『日本語教育』52 : 91-103
- 宮岸哲也 (1998) 「シンハラ語の Ta 格助詞の意味的特徴」『安田女子大学紀要』27 : 57-74
- \_\_\_\_\_ (2003) 「シンハラ語奪格と具格名詞と動詞の結びつき」『安田女子大学紀要』31 : 1-26
- Karunathilaka, W. S. (1992) *An Introduction to Spoken Sinhala*. Colombo: Gunasena
- \_\_\_\_\_ (2005) *sinhala bhaashaa wyaakaranaya*. Colombo: Gunasena
- K. Jayathilaka (1991) *Nuuthana Sinhala wyaakaranayee mul potha*: Pradeepa Prakaashakayo